

授業改善等に関する報告書（2020 年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2020（前期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
メディアプロデュース論	行実 洋一	アンケート結果から見ると、授業形式の変更に伴うシラバス内容の変更が十分追いつかなかった点、それからオンデマンド形式の授業だったため、どうしても双方向性が十分には確保できなかった点が反省点としてあります。その辺は次回授業の改善点として生かしていきたいと思います。
現代社会を読み解くb (生活と産業)	須賀 由紀子, 行実 洋一	オンデマンド形式の授業だったため、どうしても双方向性にやや難が見られましたが、全体としては低い評価でなかったことに安堵しました。反省点を踏まえ、次回授業の参考としたいと思います。 「現代の社会や企業の現状など、生産者と消費者の関係性について、企業のしくみについて理解が深まりました」「現代の産業は時代とともに変化していることができ、様々な職業について興味を持つことができました。女性と社会との関わりも学べてよかったです」など、これからの学科の学びの視点を御提供いただけてよかったです。現代社会を見る目にも今後も生かしていただければと思います。
環境科学概論	菅野 元行	履修生77名中62名の方々に回答していただき（回答率80%）、総合的な満足度が4.42（5.00が最高点）となり、全体平均値よりも高い評価が得られました。昨年度に比べて回答率（昨年度64%）、総合的な満足度（昨年度4.33）ともに増加しました。 自由記述欄にも多くの方に記載していただき、回答していただいた方々に御礼申し上げます。自由記述から一部を掲載します。「今までわからなかったことがわかるようになりました。日常生活にかかわることなので、知ることができてよかったと思うことが多いです。」「文章にまとめる力が履修開始前よりは上がったと感じています。」「半分以上初めて知る内容で、地球温暖化や紫外線などの自分のためになることも多く、文章にまとめていくとより理解が深まりました。」「講義を聴いた後に講義内容をまとめるのが課題だったので、授業内容が他と比べて頭に入りやすかったです。」「地球で暮らす人にとって、学ばなければならない最低限のことを学ぶことができました。」「 「自分たちの生活にはたくさんの化学で溢れていることがよく分かりました。」「オーロラについては知らないことばかりだったので理解がとても深まりました。」「環境について知識が増えたことが嬉しかったです。」「身の回りの自然環境の仕組みを科学的に学ぶことができました。」「自分の知らなかった知識が非常にたくさんあったので非常に理解が深まり良い機会になった。」「環境について全く知らなかったのですが、毎回の授業が興味深く、環境分野についての理解が深まった。」「文章をまとめる力がついたと思います。環境の仕組みを知ることができて、面白かったです。」「苦手意識があった科目だったが、学ぶ内容が楽しいと感じるようになった。」「毎回自分で授業内容をまとめるので、新聞記事を見たりネットで調べたりすることでより身についたと感じ、新たな発見ができました。」「今までは環境についてあまり興味はなかったのですが、授業で習ったことをテレビなどで見る機会もあり、日常で役立つことが多く学べてよかったなと思いました。」「授業内容のことも勉強方法のことも質問をすると、丁寧な答えが返ってきました。」「課題に取り組む際、先生の言葉が励みになったのでとても感謝しています。」「 「授業資料が見やすかったです!」「また、この授業の内容は、家族に話す話題にもなるので受けてよかったと感じています。」「科学は好きな部類なので、身近な話題から遠い宇宙の話までとても興味深い内容でした。」「オンデマンドだと何度も再生できるのが良かったです。」「環境について気になっていたことも知ることができて、とても楽しかったです。」「説明が丁寧で理解しやすかった。」「オンデマンド型の授業でしたが授業の進み方が理解しやすい形で良かったです。」「化学は生活していくうえであまり関係のないものだと思っていたけれど、自分たちの身の回りには化学の力があらゆるところで働いており理解を深めることは大事なのだとよくわかりました。」「苦手意識がありました。」「最後まで一生懸命取り組んだことで自分の成長に繋がりました。」「環境についての意識が高まりました。以前より、環境系のテレビを見るようになりました。」「成績評価基準が明確化されていたため、課題に取り組みやすかったです。」「授業資料が非常に分かりやすかったです。音声ファイルもあり、対面授業でなくてもしっかりと学ぶことができました。」「授業資料に写真や新聞記事があり、内容も頭に入りやすかったです。」「環境に関する理解が深まりました。」「とても分かりやすかったです。いつまでに何をすればいいのか、がはっきりしていきやすかったです。」「紫外線の話なども交えていて、様々なことが学べたのが良かったです。」「文系で科学をあまり詳しくやっていたので心配でしたが、説明や講義資料もとても分かりやすく課題もスムーズに進めることができ、とても良かったです。」「自分の住んでいる地球について非常に深く考えるきっかけになった。授業ごとに課題が出され、その課題のおかげでただ先生から配信された動画を聞くだけでなく課題をこなすことにより自分の中で内容の処理ができ、うまく頭に入りやすかったです。」「その他のコメントもすべて拝見しました。ありがとうございました。今後も分かりやすい授業を心がけます。」
生活産業創出論	須賀 由紀子	オンデマンド授業でしたが、生活産業についての理解や知識が深まり、興味を深めることができたとのコメントが多く、安堵しています。産業が自分たちの生活とどのように関わっているのか、着眼点を持っていたらと思うので、ぜひご自分でも、身近な商品やサービスなどに目を向け、現代の企業がどのような考え方で、これらのものを生み出しているかなど、考えてみていただけるとよいと思います。

[2020（前期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
環境マーケティング論 b	倉持 一	<p>授業の理解度や満足度の項目では、好意的な評価が100%でした。今回の授業は、新型コロナウイルス感染症問題に影響でzoomによるオンライン授業となりましたが、履修者とのコミュニケーションをとっていくことで理解度や満足度を高めることができたようです。これには、履修者のみなさんが積極的に発言してくれたこと、また、プレゼンテーションをしっかりと準備し、発表してくれたことの影響が大きいと思います。</p> <p>アンケート結果にも「他の学生の意見が聞いてよかった」とありました。引き続き、オンライン授業であっても、これまで同様の質を担保すべく工夫していきたいと思っています。</p>
メディア社会概論	行実 洋一	<p>アンケート結果から見ると、授業形式の変更に伴うシラバス内容の変更が十分でなかったことと、オンデマンド形式の授業だったため、双方向性にやや難が見られましたが、全体としては高い評価を受けたことに安堵しました。反省点を踏まえ、次回授業の参考としたいと思います。</p>
応用メディア技術	河井 延晃	<p>本科目「応用メディア技術」は、実技演習を含めた科目でしたが、本年度はコロナ禍にあって遠隔での授業形態となりました。</p> <p>まずアンケート項目ですが、全体の「総合的な満足度」は4.18で全体平均以上にあったといえます。この中で、今後の改善点として平均値の低い項目に着目したいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週当たりの予習復習時間 (0.82h (他科目平均が1.24h)) ・シラバスの内容との一致 (3.91) ・この授業に対する学生の自己採点評価 (3.82) <p>上記の三点が低い項目です。シラバスの内容との一致は、演習授業を遠隔で切り替えたことで、指摘通りです。一方で、予習復習時間の低さと、自己採点評価の低さが低い点ですが、課題の回数が少なかったことで予習復習時間が少なくなったと考えられます。また、自己採点の低さですが、課題が少なく手ごたえや負荷が低かったとも考えられます。つまり、この二項目はある程度の連関があると考えられます。</p> <p>改善策としては、程よい課題量を考えてコンスタントに予習復習時間を設定することが挙げられます。一方で、本来実習室での制作作業も含まれる授業であるため、次年度以降はコロナ禍に適応したシラバスや履修形態の再検討が考えられます。</p>
ビジネス特論 b (地域ビジネス)	倉持 一	<p>授業の満足度に関しては100%好意的な回答でしたが、今回は理解度では「3」を選択した学生がいたことは反省すべきだと考えています。今回はzoomを活用したオンライン授業でしたので、受講生の表情などがつかめず、授業展開のスピード調整がうまくいかなかったかもしれません。今後の検討課題にしたいと思います。</p> <p>地域ビジネスは、今後、新型コロナウイルス感染症問題の影響を大きく受け、悪い方向に向かってしまう可能性もあります。こうしたアフターコロナの時代における地域ビジネスを組み入れ、新たな授業展開も図っていききたいと考えています。</p>
女性社会論 a	須賀 由紀子, 行実 洋一	<p>アンケート結果から見ると、やはりオンデマンド形式の授業だったため、双方向性に難が見られたことは反省点でした。その点を踏まえ、次回授業の参考としたいと思います。</p> <p>「今後の女性の生き方についての考えが深まりました」「自分の人生や生き方について考えることができた」などのコメントもありました。この授業で得た視点を、ぜひ今後に生かしていただければと思います。</p>
環境の化学と工学	菅野 元行	<p>履修生59名中22名の方々に回答していただき（回答率37%）、昨年度よりも回答率（14%）が上昇しました。総合的な満足度が4.77（5.00が最高点）となり、昨年度の値（4.00）や全体平均値よりもはるかに高い評価が得られました。</p> <p>自由記述欄にも記載していただいた方々に御礼申し上げます。その一部を掲載します。「講義を通して、環境問題について理解し、レポート課題を通して、文章をまとめる力が養われたと感じた。ご指導いただきありがとうございます。」「原子力発電やプラスチックの基礎的な知識、また、それぞれの課題について理解を深めることができた。」「原発やゴミ問題など現代の環境問題についての理解が深まった。」「課題発見の力や文章力も見についたと感じる。」「原発の問題についてなど、知っているようで知らなかったことを知ることができた」「オンデマンドになっても授業の質が落ちていなくてとても分かりやすくやりやすかったです。ありがとうございます。」「新聞記事や図が多い点がとても良いと思いました。」「授業の進むペースがとても丁度良かったです。」「資料が分かりやすく、理解が深まった。この授業を受けてよかったなと思った。」「通常授業とほぼ変わらない授業スタイルを維持してくださったことであまり混乱することなく授業に取り組むことができたので良かったです。」「今後も原発やプラスチックリサイクルなどの難しけれども大切な環境問題を分かりやすく伝えることに励みます。」</p>

【2020（前期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
プロジェクト実践演習 a	須賀 由紀子, 合原 勝之	オンデマンドでの授業となり、授業資料をもとに制作を行っていく形となり、大変難しかったと思います。反省点を、次回に活かしたいと思います。ただ、皆さんの作品は最終的にはよい出来栄でした。授業で行ったことを、今後の自身の表現や企業研究に活かしていただければと思います。
フィールドリサーチ c (メディア)	高橋 徹	アンケートの結果はほとんどの項目で例年よりも良いポイントになっているし、受講生の理解レベルも高かった。本年度はオンライン双方向授業での実施であったために方法の変更と改良を行ったことが結果的に良い結果になったと考えている。最も大きな変更はグループでの作業がしづらいいという事からグループ課題を個人課題に切り替えたところである。グループ課題で行う部分を細かく一つずつに分けなくてはならなかったことで結果的に各々を丁寧に教えることができた。一方で、グループ課題ではなく個人課題であったために個人で考える部分が大きくなったのが理解レベルの向上に結び付いたと考えられる。来年以降、オンライン双方向授業が必要なくなったとしても、本年度の枠組みで授業を実施していく予定である。
グレートブックスセミナー 1	犬塚 潤一郎	哲学的思考・テキストは、日常の考え方や文章とは、かなり違います。それゆえ慣れないうちは相当に難しく感じるものですが、皆さんは短期間にそれを自分にとって近しいものにできたようです。その手ごたえをお伝えいただいたことを、頼もしく思います。また、毎回の課題に精密な文章で応えようとすること、そしてオンラインディスカッション形式が、このような学習にはとてもあっていたことも多くお伝えいただきました。もちろん、哲学的思考・テキストだけでなく、オンライン形式になれることも、この間の課題になってしまったのですが、ここで身に付けられた思考法や技術、姿勢を、今後一層確かなものとしてゆかれますように。
グレートブックスセミナー 1	犬塚 潤一郎	哲学的思考・テキストは、日常の考え方や文章とは、かなり違います。それゆえ慣れないうちは相当に難しく感じるものですが、皆さんは短期間にそれを自分にとって近しいものにできたようです。その手ごたえをお伝えいただいたことを、頼もしく思います。また、毎回の課題に精密な文章で応えようとすること、そしてオンラインディスカッション形式が、このような学習にはとてもあっていたことも多くお伝えいただきました。もちろん、哲学的思考・テキストだけでなく、オンライン形式になれることも、この間の課題になってしまったのですが、ここで身に付けられた思考法や技術、姿勢を、今後一層確かなものとしてゆかれますように。
環境思想 b	犬塚 潤一郎	各文化に特徴的な、環境に関する思想を、“美的な”（芸術的な）表現を通して考えてきました。難しい内容ながら、皆さんが十分に楽しまれたことが確かめられました。ただ、専門的な用語・概念の説明について、丁寧で分かりやすいとされる意見とともに、もう一つ理解できなかった、という評もありました。バックグラウンドの個人差もありますが、自主学習で補ってゆくことも、学ぶ姿勢としては必要なものだと思います。そのような意見を述べられる方も、実のところ、毎回の課題を書くことに真剣に取り組まれ、実際に学習能力を高められていることも顕著であり、ご本人の成長としては充実したものであったと思われれます。
メディアコミュニケーション a	行実 洋一	アンケート結果から見ると、授業形式の変更に伴うシラバス内容の変更が十分でなかったことと、オンデマンド形式の授業だったため、双方向性にやや難が見られましたが、全体としては高い評価を受けたことに安堵しました。反省点を踏まえ、次回授業の参考としたいと思います。
ゼミナール	河井 延晃	<p>本科目「ゼミナール」は3年生配当の演習科目となります。今期はコロナ禍で遠隔授業の形式となりましたが、演習形態として以下のテキストを輪読しました。</p> <p>・レイチェル・ボッツマン(著), 関 美和 訳『TRUST 世界最先端の企業はいかに〈信頼〉を攻略したか』日経BP</p> <p>アンケート回答をみると全体の総合的授業満足度は4を超えていましたが、特にポイントの低い項目について分析と対応を考えてみたいと思います。ただし、本科目のアンケートはまず回答率が大変低かったことにも留意しておく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容との一致 ・説明のわかりやすさ ・学生自身の自己採点評価 <p>上記の項目の評価が低かったことですが、テキストの選定がシラバスの内容と一致していなかったと判断されたということが考えられます。対応策を考えるとすれば輪読テキストの選定理由などをさらに詳細に説明することだと考えます。また、「説明のわかりやすさ」についても、学生の報告が終わった後に教員からの解説を増やすことで、学生の報告をサポートすることが考えられます。</p> <p>いずれにせよ、本科目のアンケート回答が大変今回は少なかったこともあり、後期のゼミではアンケート回答に対して周知徹底してゆくことも大きな反省点であると考えます。</p>

【2020（前期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ゼミナール	須賀 由紀子	前期は双方向授業となり、毎週オンラインではお会いできたものの、画面越しで少し遠かったですね。でも、地域の課題を考えていくことができてよかったと思います。後期も引き続きみんなで取り組んでいきましょう。
ゼミナール	行実 洋一	学生からの提出がありませんので、コメントは行いません。
ゼミナール	高橋 徹	回答数が少なかったためアンケート結果からは何かを述べるのは難しい。個人的な反省としては双方向型でゼミすることとなり例年よりも進行が遅くなってしまったことがある。いくつかのツールを使ってできるだけ例年と同じ内容を目指したが、やはり難しく、十分な学習結果を得るためにスピードを落とさざるを得なくなってしまった。もう少し、議論がしやすいように出だしの部分をフォローする必要があったと考えられる。一方で、ゼミ生はこの状況下でも意欲を出して頑張ってくれたので、それで比較的うまくいった部分を大きくあると考えている。
ライフ・プランニング	犬塚 潤一郎	社会を多角的・構造的に見ること、そして論じることについて、自分の成長と手ごたえを伝えられるものが多く、皆さんの成長を頼もしく思います。毎回の論述課題、そして授業中ディスカッションの内容が、授業回数が進むごとに向上してきたことに確かに現れています。一方、ディスカッションをうまく進められない、学生だけでなく、手助けが必要と感じられている例も、少数ですがあげられています。 学生同士で討論する形式に馴染み、その能力を身に着けることは、今日とても重要とされていますが、教師などのサポートがないとうまく進められない、という方も少なくありません。その場合も、自主性の涵養の見地からすれば、グループ討議の進め方までいちいち教師にガイドしてもらおう、というよりも、なんとかうまく運ぼうと、自分で試みるほうが効果は高いと思います。もちろんうまく進められる方、この授業機会を通してより慣れた方の方が多いため、このような機会を通して一緒に、各自の能力向上に努めていただきたいと思います。 ディスカッションについて：実はこれは、例年の教室型であれば、うまくいかない例はずっと多かった、という問題でもあります。今期図らずも、対象者のみの閉鎖感のある、オンラインの方が環境はずっと効果的であることが実証されたかとみえています。
少子高齢化社会	須賀 由紀子	オンデマンド授業でしたが、内容もよく理解していただけたようで、本当に安堵しました。皆さんのような若い方たちが、地域に目を向け、多様な世代の暮らしについて考えることは本当に大事なことだと思っています。「少子高齢化社会でそれぞれの世代の課題とこれから行っていくべきことを理解することができた」「地域交流について、考えたことがなかったが、重要性に気づくことができて今後に活かそうだと思い、興味を持つことができた」「最終課題の企画案を通して、自ら課題の発見をし提案していくことを学びました。また、若者である私たち大学生が率先して動いていくことが大切であると感じました。授業、そして課題を通して、自分自身で考えていく力が身についたと思います」などのコメントもあり、とても頼もしく嬉しく思います。ぜひ今後も、身近な高齢者・子どもたちのことを思って行動して欲しいなと思います。
エコビジネス演習	菅野 元行	履修生13名中2名の方の回答と、3・4年生の履修科目としては寂しい回答率に留まりましたが、総合的な満足度が5.00（5.00が最高点）となりました。ご回答いただいた方々には感謝します。教員としては毎回の過去問をマナバにアップするので精一杯でしたが、間違えた問題を復習することで皆さんがeco検定に合格することを願っています。
家庭経営 a（食生活）	奈良 典子	前向きなご意見有難うございます。今後の授業に反映させていただきます
地域エネルギー論演習	菅野 元行	履修生9名中2名の方の回答と、3・4年生の履修科目としては寂しい回答率に留まりましたが、総合的な満足度が5.00（5.00が最高点）となりました。ご回答いただいた方々には感謝します。
ビジネス特論 a（環境ビジネス）	菅野 元行	履修生60名中18名の方々に回答していただき（回答率30%）、昨年度よりも回答率（9%）が上昇しました。総合的な満足度が4.44（5.00が最高点）となり、昨年度の値（4.33）や全体平均値よりも高い評価が得られました。自由記述欄にも記載していただいた方々に御礼申し上げます。その一部を掲載します。「地球温暖化問題だけではなく、企業の取組、制度についても知ることが出来た。」「授業を通し、学習意欲が向上しました。より集中して取り組むことができたと感じています。ご指導いただきありがとうございます。」「環境に配慮した街の種類がとても多く、様々な活動があることを知ることができました。」「環境について自分の生活と絡めながら考えることができるようになった。」「環境問題に対する関心が、多様な事例の紹介により高まりました。」「通常の授業とほぼ変わらない授業スタイルを維持してくださったので、混乱することなく授業に取り組むことが出来ました。」「様々な環境問題、そしてそれに対する取り組みを知ることが出来ました。」「今後も気候変動対策や生物多様性などの難しい環境問題を分かりやすく伝えることに励みます。」

[2020（前期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
グレートブックスセミナー2 a	犬塚 潤一郎	テーマとして取り上げた“美”については、西洋哲学(美学)の中の展開では、感覚的なことから始まり、知的なものへと“上昇”してゆく、という一つの強力なモデルがあります。それを辿りながら、作品やテキストを読み込んでゆく、毎回の議論を皆さんが十分に楽しまれ、知識よりはむしろ、論述能力を育てられましたことを頼もしく思います。
環境マーケティング論 a	犬塚 潤一郎	内容については満足いただけただけですが、課題が少し加重と感じられた、との声もありました。もう少し頻度を少なく、ということですが、学習＝自身の成長の機会です。実際、提出された内容は授業回ごとに充実し、それぞれの方の成長も顕著ですから、ちょうどよかったのでは？
ゼミナール	野津 喬	オンライン授業でのゼミという難しい状況だったが、授業の満足度が5.0、学生の成長実感が4.9であったこと、また以下のような感想が寄せられたことから、授業目的は達成できたと考えている。 ・Zoomを通して、毎回の授業でグループワークなどができて、オンラインでも対面のように授業ができた ・先生と学生の距離が近く、相談しやすい空気感がとても良かった ・少人数グループで会話する場面も多く設けられていて、積極的に話すことができた ・他の人と発表を共有することで、より自分の考えを定着させることが出来た 対面授業が主となる後期についても、前期の良い雰囲気を継続してゼミナールを運営していきたい。
ゼミナール	菅野 元行	大学での活動が必要なゼミナールについて、前期は感染拡大、大学閉鎖のため活動ができませんでしたが、6月後半から活動を開始することができました。ゼミ生4名がお互いに溶け込むことや、ゼミの活動を理解していくことで前期は終わった感じがしますが、前期の大学閉鎖時の分を夏休みに学生諸君が自主的に集まることにより解消されたと思います。後期は常磐祭など具体的な活動に取り組んでいきますが、皆さんの意欲が高く教員としては頼もしい限りです。後期終了時の成長を楽しみにしています。
メディア経営論	犬塚 潤一郎	きちんと課題に取り組まれ、またその理解を確かめながら進めることができました。相応の効果はあったと思います。
映像制作演習 a	犬塚 潤一郎	グループ制作を、onlineでも取り組もうという、この状況下での試行でもありました。その状況下で実際に作品制作を実現できたことは、この状況になる以前でもすでに、online制作体制が現実のものでもあるという現場状況からすれば、皆さんの経験、力になったものと思います。一方、撮影現場については、対面だったらもっと楽しかっただろう、という意見はその通りだと思います。
ゼミナール	犬塚 潤一郎	学術研究の基本的なかたちを紹介し、実際に慣れようという段階でした。生まれた意欲がどのように発展してゆくか、休暇明けの成果が期待されます。